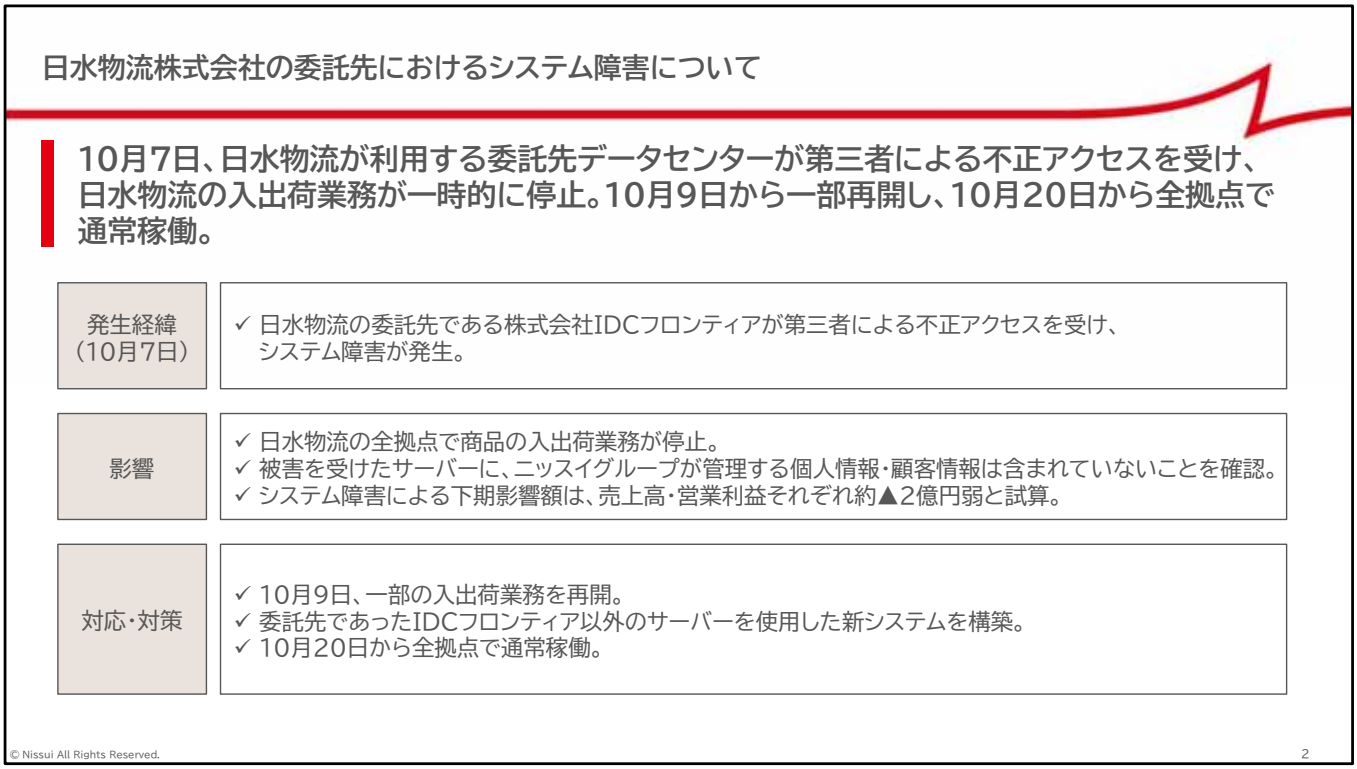
2027年3月期　中間期
決算説明会

2026/11/10　　株式会社ニッスイ

© Nissui All Rights Reserved.



決算の説明に先立ち、10月に発生した日水物流のシステム障害についてご報告します。

10月7日に日水物流が利用している委託先データセンターが第三者による不正アクセスを受け、日水物流の全拠点で入出荷業務が一時停止しました。10月9日から一部再開し、その後委託先とは異なるサーバーを利用したシステムの構築を進めた結果、10月20日には全拠点で通常稼働に戻っています。
被害を受けたサーバーに、当社グループが管理する個人情報や顧客情報は含まれていません。

今回の障害による下期業績への影響は、売上高・営業利益ともに2億円弱のマイナスと試算し、業績予想に織り込んでいます。

今回の障害を踏まえ、再発防止に向けて当社グループ全体で外部委託先を含めた情報セキュリティ対策及びリスク管理のさらなる強化に取り組んでいきます。
また、システム障害の発生を見越した早期復旧や事業継続のための体制強化も進めていきます。

このたびはお客様、お取引先をはじめ関係する皆様にご迷惑とご心配をおかけしたことを、深くお詫び申し上げます。

決算ハイライト

▶ 2027年3月期 中間期実績:

- 売上高・営業利益ともに中間期として過去最高を更新。
- 水産事業における漁業・商事の好調、ファインケミカル事業の販売堅調などにより増収・増益。
- 食品事業は価格改定を進めたものの、原料高や国内の販売数量減などにより減益。
- (株主還元)中間配当は計画通り2円増配の16円。

売上高	営業利益
5,067 億円 前年同期比+11.9%	211 億円 前年同期比+7.0%

▶ 2027年3月期 通期業績予想: 変更なし

売上高	営業利益
10,000 億円 変更なし	425 億円 変更なし

※本資料に記載の数値は、表示単位未満を切り捨てて表示
※増減額は千円単位未満を切り捨てて算出しており、増減率は四捨五入により表示

© Nissui All Rights Reserved.

中間期は、売上高が前年同期比11.9%増の5,067億円、営業利益は7.0%増の211億円となり、いずれも中間期として過去最高を更新しました。
水産事業とファインケミカル事業が増益となる一方、食品事業は原料価格の上昇や国内の販売数量減などにより減益となりました。また、南米養殖のYadran社では収益改善に若干遅れが見られます。
通期業績予想は、8月公表の売上高1兆円、営業利益425億円を据え置いています。



TABLE OF
CONTENTS

01 2027年3月期 中間期 決算概況 P 5～16

02 今後の見通し・取り組み P17～26

03 参考資料 P27～37

© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　決算概況



2027年3月期 中間期　サマリー

売上高・営業利益ともに中間期として過去最高を更新。南米養殖への投資に伴う借入金増加や金利上昇により支払利息が増加し、経常利益・中間純利益は減少。

	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	対前年同期比 増減	増減率（%）	2027年3月期 修正計画（8月発表）	計画進捗率（%）
売上高	4,529 億円	5,067 億円	537 億円	11.9	10,000 億円	50.7
営業利益	197 億円	211 億円	13 億円	7.0	425 億円	49.8
経常利益	212 億円	204 億円	▲7 億円	▲3.6	430 億円	47.5
親会社株主に帰属する中間純利益	142 億円	135 億円	▲7 億円	▲5.1	290 億円	46.8

© Nissui All Rights Reserved.

中間期の業績について、売上高・営業利益は先ほどご説明した通り、過去最高となりました。

一方、経常利益は204億円、親会社株主に帰属する中間純利益は135億円となり、ともに前年同期を下回りました。

営業利益が増加した一方で、経常利益が減少した主な要因は、南米養殖事業への投資に伴う借入金の増加や金利上昇による支払利息の増加です。
加えて、養殖マグロの斃死やタイでの回収事故に伴う損失も影響しました。

今後は、営業利益の拡大に加え、財務負担や事業リスクも適切に管理し、最終利益の成長にもつなげていきます。

2027年3月期 中間期　セグメント別概況

水産事業における漁業・商事の好調、ファインケミカル事業の販売堅調などにより増収・増益。
食品事業は価格改定を進めたものの、原料高や国内の販売数量減などにより減益。

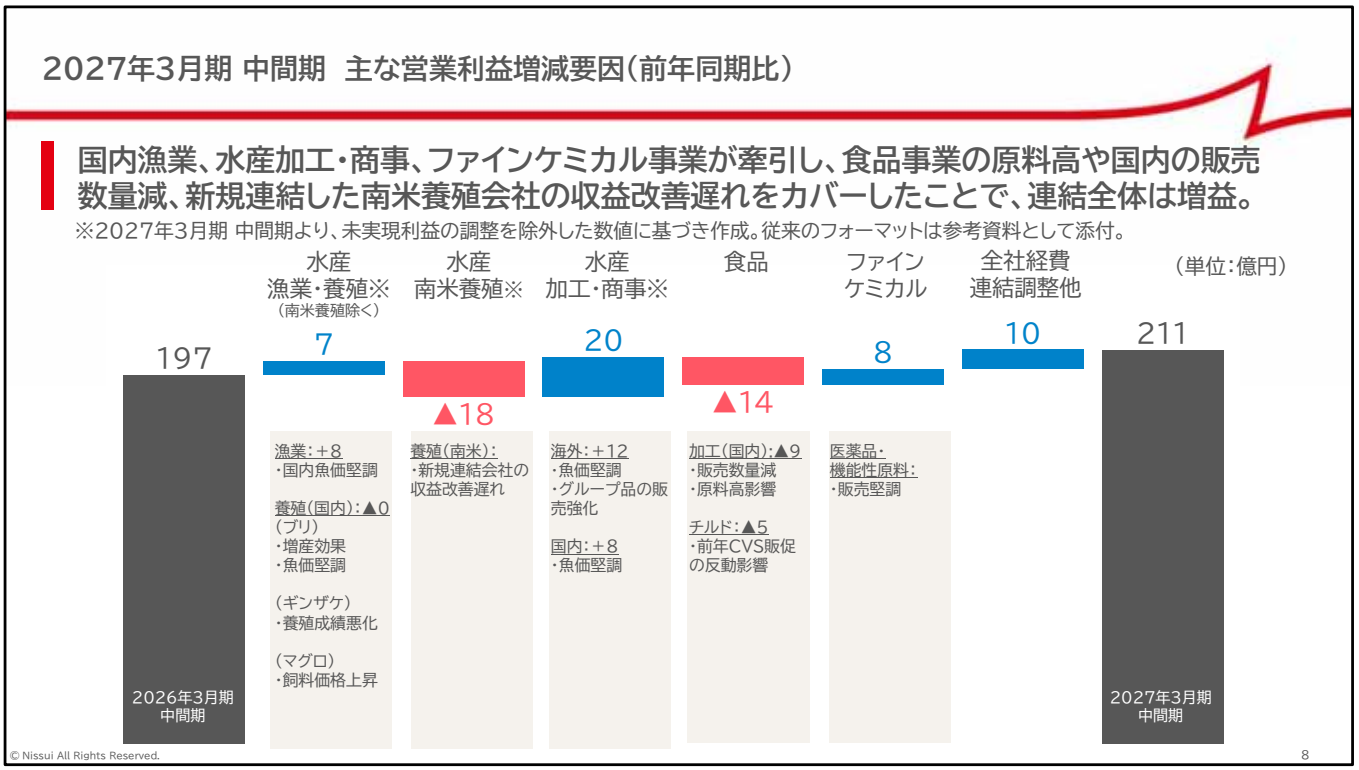
（単位：億円）	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	対前年同期比 増減	増減率（%）	2027年3月期 修正計画（8月発表）	計画進捗率（%）
売上高	**4,529**	**5,067**	**537**	**11.9**	**10,000**	**50.7**
水産事業	1,788	2,140	352	19.7	4,224	50.7
食品事業	2,517	2,691	173	6.9	5,256	51.2
ファインケミカル事業	71	81	10	14.5	174	46.8
物流事業	83	87	4	5.1	177	49.6
その他	68	66	▲2	▲3.2	169	39.4
営業利益	**197**	**211**	**13**	**7.0**	**425**	**49.8**
水産事業	60	85	24	40.8	219	39.1
食品事業	168	153	▲15	▲8.9	275	55.7
ファインケミカル事業	1	10	8	482.5	18	55.0
物流事業	12	11	▲0	▲3.5	26	46.0
その他	3	4	0	21.5	1	280.5
全社経費	▲48	▲53	▲4	9.6	▲115	46.5
経常利益	**212**	**204**	**▲7**	**▲3.6**	**430**	**47.5**
親会社株主に帰属する中間純利益	**142**	**135**	**▲7**	**▲5.1**	**290**	**46.8**

＜売上高為替影響額＞
合計 +約234億円
水産 +約126億円
食品 +約108億円

© Nissui All Rights Reserved.

セグメント別には、水産事業とファインケミカル事業が増収増益、食品事業が増収減益となりました。

売上高には、為替換算による約234億円のプラス影響が含まれています。各事業の増減要因は後ほどご説明します。



営業利益の増減要因です。今回から、未実現利益の調整を除外した数値に基づいています。従来の書式は参考資料をご参照ください。

営業利益は前年同期の197億円から211億円となり、約13億円の増益です。国内漁業・養殖は7億円、加工・商事は20億円、ファインケミカル事業は医薬品原料の販売等が堅調で8億円の増益となりました。

一方、南米養殖ではYadran社の収益改善遅れにより18億円、食品事業では原材料価格の上昇や国内の販売数量減などにより14億円の減益となりました。

国内漁業、水産加工商事、ファインケミカル事業の増益によって連結全体では増益を確保しましたが、南米養殖の事業損益の改善と食品事業の原材料価格上昇への対応が今後の重要な課題となっています。今後は好調な事業の競争力をさらに高めるとともに、課題事業の収益改善を加速していきたいと思っています。

2027年3月期 中間期　連結貸借対照表(前期末比)

食品工場への成長投資や養殖事業拡大による運転資本増に伴い、総資産は380億円増加。有利子負債も増加したことで、ネットD/Eレシオは目標レンジ(0.7～0.8)を上回る0.9となった。

総資産	自己資本比率	ネットD/Eレシオ
7,875億円	39.8%	0.9
前期末比 +380億円	前期末比 ▲0.2 pt	前期末比 +0.1

(単位:億円)		2026年3月期末	2027年3月期中間期	増減
資産		7,495	7,875	380
	流動資産	※3,769	3,985	216
	固定資産	※3,725	3,889	163
負債		4,395	4,633	237
	流動負債	2,764	2,743	▲ 20
	固定負債	1,631	1,889	258
純資産		3,099	3,242	142
	株主資本	2,360	2,443	82

※前期数値の遡及修正について
Yadran社の取得原価が確定したことに伴い、前期末の数値について遡及修正している。

(単位:億円)	2026年3月期末 遡及適用前	2026年3月期末 遡及適用後	増減
流動資産	3,760	3,769	8
固定資産	3,734	3,725	▲8

© Nissui All Rights Reserved.

総資産は前期末比380億円増の7,875億円となりました。国内外の食品工場や養殖事業等への成長投資に加え、養殖事業の拡大に伴う運転資本の増加が主な要因です。
自己資本比率は39.8%、ネットD/Eレシオは0.9倍と、中期経営計画の目標レンジである0.7～0.8倍を上回っています。

これまでの成長投資によって事業基盤が強化されましたが、一方で有利子負債が増加していることも事実です。
今後は、投資の規模を拡大すること以上に、投資した資産をいかに効率的に活用し、利益とキャッシュを生み出すかを重視していきます。
投資先の収益改善とキャッシュ創出力の強化を通じて、2030年度をめどにネットD/Eレシオを目標レンジに戻すことを目指していきます。

2027年3月期 中間期　連結キャッシュ・フロー（前年同期比）

取得した南米養殖会社の長期買掛金を計画通り返済したことで、FCFは一時的に悪化。
運転資本管理や南米養殖会社の早期収益改善による営業CF水準の向上を図る。

（単位：億円）	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	増減	主な増減要因
税金等調整前中間純利益	210	212	1	―
減価償却費（のれん償却※含む）	129	158	28	・設備投資の増加に伴い増加
運転資本	▲ 112	▲ 229	▲ 116	・南米養殖会社などの生産拡大に伴う棚卸資産増 ・南米養殖会社の取得による長期買掛金返済
利息の支払額	▲ 12	▲ 39	▲ 26	・南米養殖会社などの借入金増加、国内金利上昇
法人税等の支払額	▲ 42	▲ 81	▲ 39	・前期業績好調による支払増など
営業CF	165	▲ 15	▲ 181	―
投資CF	▲ 256	▲ 239	16	・投資有価証券の売却による収入など
FCF（フリー・キャッシュ・フロー）	▲ 90	▲ 255	▲ 165	―
財務CF	144	191	47	・前期実施した自己株式の取得による支出の反動など
※参考：のれん償却費用	2	3	0	―

© Nissui All Rights Reserved.

営業キャッシュ・フローは、前年同期の165億円に対し、15億円のマイナスとなりました。主な要因は南米養殖会社などにおける棚卸資産の増加に加え、買収に伴う長期買掛金の返済や支払利息の増加、国内金利上昇等です。このうち長期買掛金の返済は、買収時の計画に沿って実施した一時的な支出です。
しかし、営業キャッシュ・フローがマイナスとなったことは、経営として重く受け止めています。

投資キャッシュ・フローは239億円のマイナス、フリー・キャッシュ・フローは255億円のマイナスとなりました。

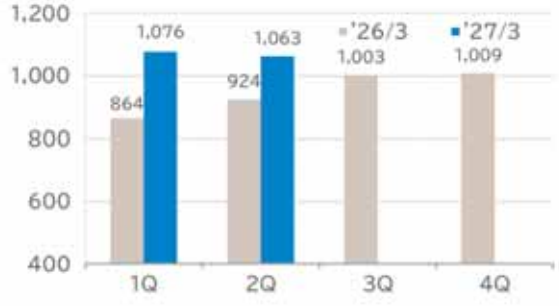
現在は成長投資が先行する段階ですが、今後は運転資本の管理を徹底するとともに、南米養殖会社をはじめとする投資先の収益改善を進め、営業キャッシュ・フローの早期回復を図ります。利益成長とキャッシュ創出の両立を、これまで以上に強く意識した経営を進めていきます。

2027年3月期 中間期　水産事業　売上高・営業利益(前年同期比)

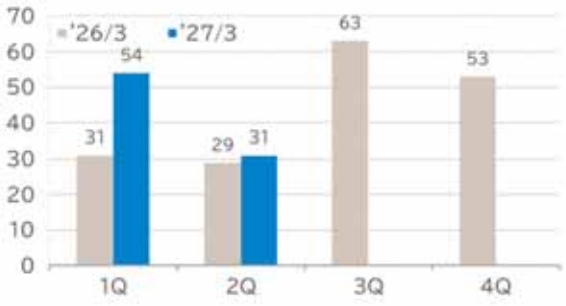
売上高は南米養殖会社の新規連結効果や北米商事の好調により増加。営業利益は南米養殖の収益改善遅れの影響があったものの、国内漁業や加工・商事が牽引し増加。

(単位:億円)	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	対前年同期比増減	増減率(%)	2027年3月期 修正計画 (8月発表)	計画進捗率(%)
売上高	1,788	2,140	352	19.7	4,224	50.7
営業利益	60	85	24	40.8	219	39.1

売上高(四半期別)



営業利益(四半期別)　(単位:億円)



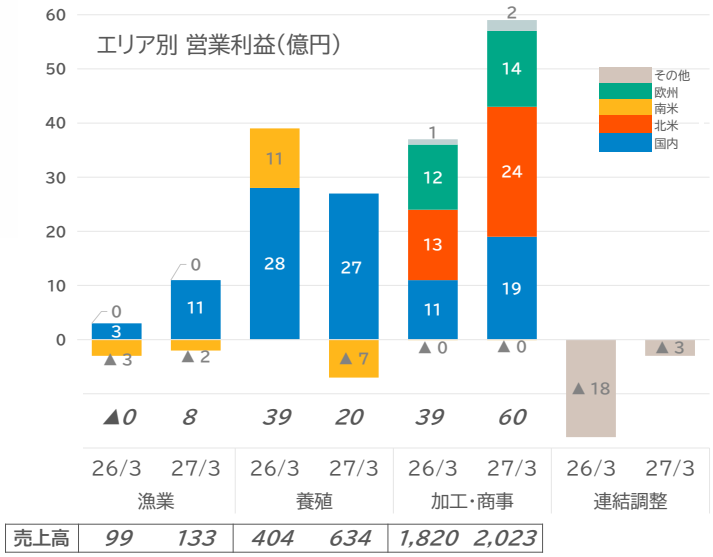
© Nissui All Rights Reserved.
11

水産事業は、売上高が前年同期比19.7%増の2,140億円、営業利益は40.8%増の85億円となりました。

売上高は、南米養殖会社の新規連結効果に加えて北米商事の販売拡大などが寄与しています。

営業利益は、南米養殖の収益改善が遅れているものの、国内漁業、加工・商事事業が好調に推移し、全体としては増益となっています。

2027年3月期 中間期　水産事業　売上高・営業利益(前年同期比)



営業利益の増減要因

漁業:増益(＋8億円)

- 【国内】アジ・サバの好調な漁獲に加え、販売価格が上昇。

養殖:減益(▲19億円)

- 【国内】ブリは販売堅調。マグロは飼料価格上昇、ギンザケは購入種苗の品質を起因とした一部漁場での養殖成績悪化の影響を受ける。
- 【南米】新規連結子会社の収益改善遅れにより減益。

加工・商事:増益(＋20億円)

- 【国内】ブリ・水産食材の販売数量が増加し、鮭鱒・魚油・すり身の販売価格が上昇。
- 【北米】マダラの販売価格が上昇。加工は高水準のフィレ生産比率を維持、商事は鮭鱒の販売数量が増加。
- 【欧州】商事では事業者向け原料販売などが堅調に推移。

© Nissui All Rights Reserved.

水産事業の営業利益の内訳です。

漁業では、国内でアジやサバの漁獲が好調に推移し、販売価格も上昇したことから8億円の増益となりました。

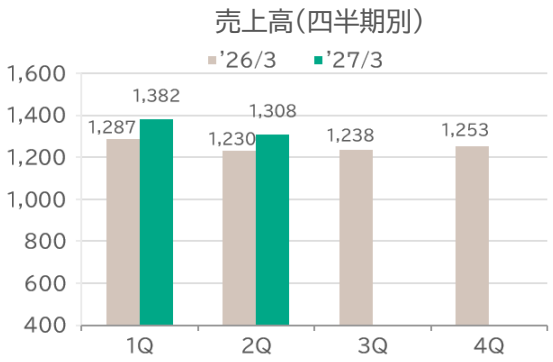
養殖事業では国内のブリの販売は好調でしたが、マグロの飼料価格上昇やギンザケの一部漁場における養殖成績の悪化が影響しています。
また南米ではYadran社の収益改善が遅れており、養殖事業全体では19億円の減益となっています。

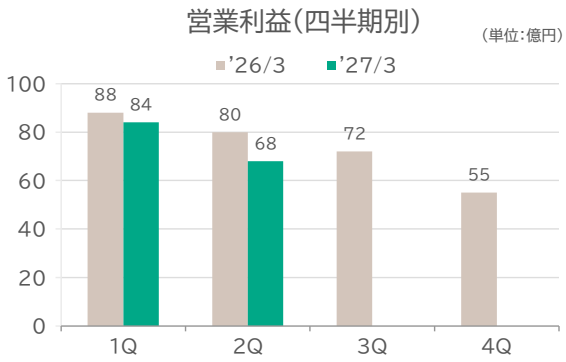
加工・商事では、国内のブリや水産食材の販売数量が増加したことに加え、鮭鱒、魚油、すり身などの販売価格が上昇しました。
北米では、加工商事においてフィレの高い生産比率を維持するとともに、商事事業では、鮭鱒の販売拡大やマダラの販売価格上昇などが寄与しています。
その結果、加工・商事全体では20億円の増益となり、水産事業全体でも増益となりました。

2027年3月期 中間期　食品事業　売上高・営業利益(前年同期比)

売上高は価格改定効果に加え、為替換算影響もあり増加。営業利益は為替影響を含む原料高の影響や国内の販売数量減、チルドの前年CVS販促の反動により減少。

(単位:億円)	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	対前年同期比増減	増減率(%)	2027年3月期 修正計画(8月発表)	計画進捗率(%)
売上高	2,517	2,691	173	6.9	5,256	51.2
営業利益	168	153	▲15	▲8.9	275	55.7





© Nissui All Rights Reserved.

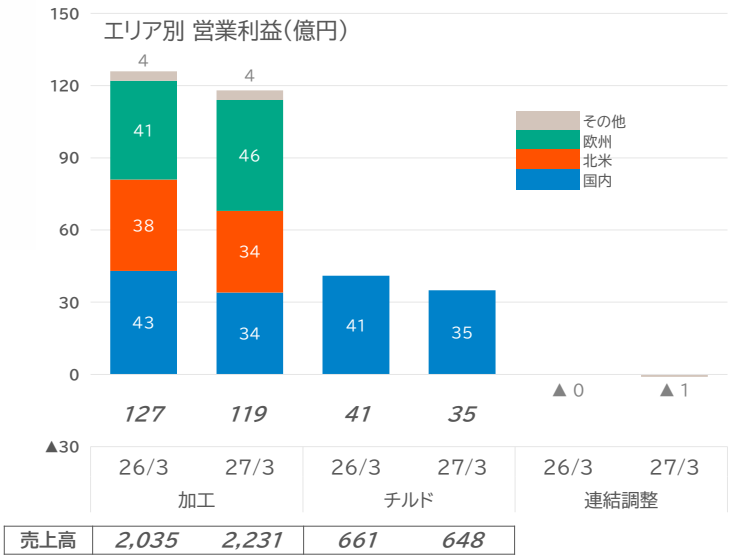
13

食品事業は、売上高が前年同期比6.9%増の2,691億円、営業利益は8.9%減の153億円となりました。

売上高は、国内外で進めている価格改定の効果に加え、為替換算によるプラス効果もあり増収となっています。

営業利益は、原材料価格の上昇や国内での販売数量減少に加え、前年のコンビニエンスストア向け販促施策の反動などにより、減益となっています。

2027年3月期 中間期　食品事業　売上高・営業利益(前年同期比)



	加工		チルド		連結調整	
	26/3	27/3	26/3	27/3	26/3	27/3
売上高	2,035	2,231	661	648		

営業利益の増減要因

加工:減益(▲8億円)

- 【欧州】家庭用は工場増設に伴う減価償却費増加や原料価格上昇の影響を受ける。業務用は販売堅調。
- 【北米】家庭用はクラブストア向けなどの販売堅調も、新工場の減価償却費が増加したことに加えて、原料価格が上昇。業務用は原料価格が上昇。
- 【国内】価格改定後の販売数量減や、為替影響、すり身原料価格上昇の影響を受ける。

チルド:減益(▲5億円)

- 前年度コンビニエンスストアの販売促進施策の反動。

© Nissui All Rights Reserved.

食品事業の内訳です。

まず海外ですが、欧州では、業務用食品の販売が堅調に推移しています。一方、家庭用食品では、工場増設に伴う減価償却費の増加や原材料価格の上昇などが利益を圧迫しています。

北米では、クラブストア向けなどの家庭用食品の販売が堅調に推移していますが、新工場の減価償却費や白身魚原料価格の上昇などが影響しています。

国内では、価格改定を進めているものの、販売数量の減少やすり身原料価格の上昇などにより減益となっています。

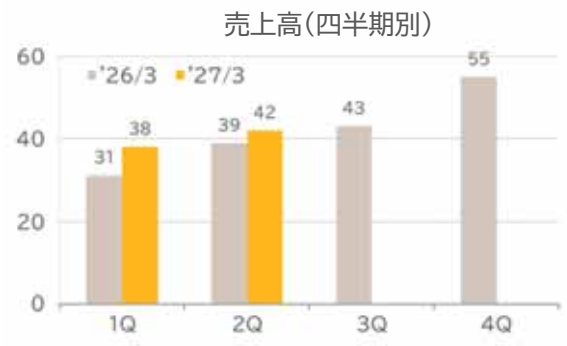
またチルド事業では、前年のコンビニエンスストア向け販促施策の反動により減益となっています。

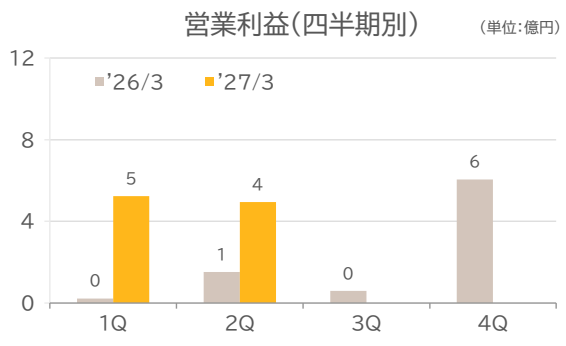
食品事業では、増強した設備を十分に稼働させ、投資に見合う利益を生み出すことが重要な課題だと認識しています。
今後は価格改定、販売数量の拡大、生産性向上を一体として進め、収益力の向上に努めていきます。

2027年3月期 中間期　ファインケミカル事業　売上高・営業利益(前年同期比)

医薬品原料や機能性原料の販売が堅調に推移し、増収・増益。

(単位:億円)	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	対前年同期比増減	増減率(%)	2027年3月期 修正計画(8月発表)	計画進捗率(%)
売上高	71	81	10	14.5	174	46.8
営業利益	1	10	8	482.5	18	55.0





© Nissui All Rights Reserved.
15

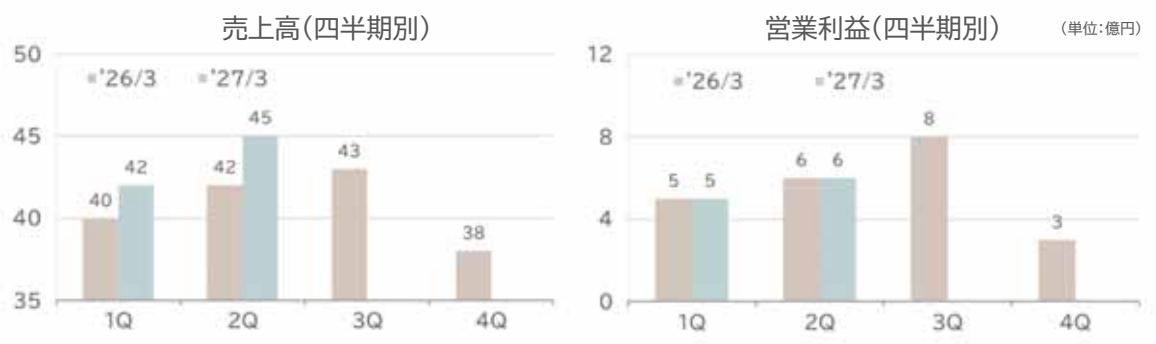
ファインケミカル事業は、売上高が前年同期比14.5%増の81億円、営業利益は前年同期の1億円から10億円となりました。

医薬品原料と機能性原料の販売が堅調に推移したことが増益の主な要因です。特に医薬品原料は当社が強みとする高純度EPAの製造技術を生かし、国内外での販売拡大を進め、事業のさらなる成長につなげていきたいと思っています。

2027年3月期 中間期　物流事業　売上高・営業利益(前年同期比)

輸送・保管需要の取り込みや価格改定効果などにより増収。人件費の上昇などによるコスト増の影響を受け、営業利益は前年並み。

(単位:億円)	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	対前年同期比増減	増減率(%)	2027年3月期 修正計画(8月発表)	計画進捗率(%)
売上高	83	87	4	5.1	177	49.6
営業利益	12	11	▲0	▲3.5	26	46.0



© Nissui All Rights Reserved.
16

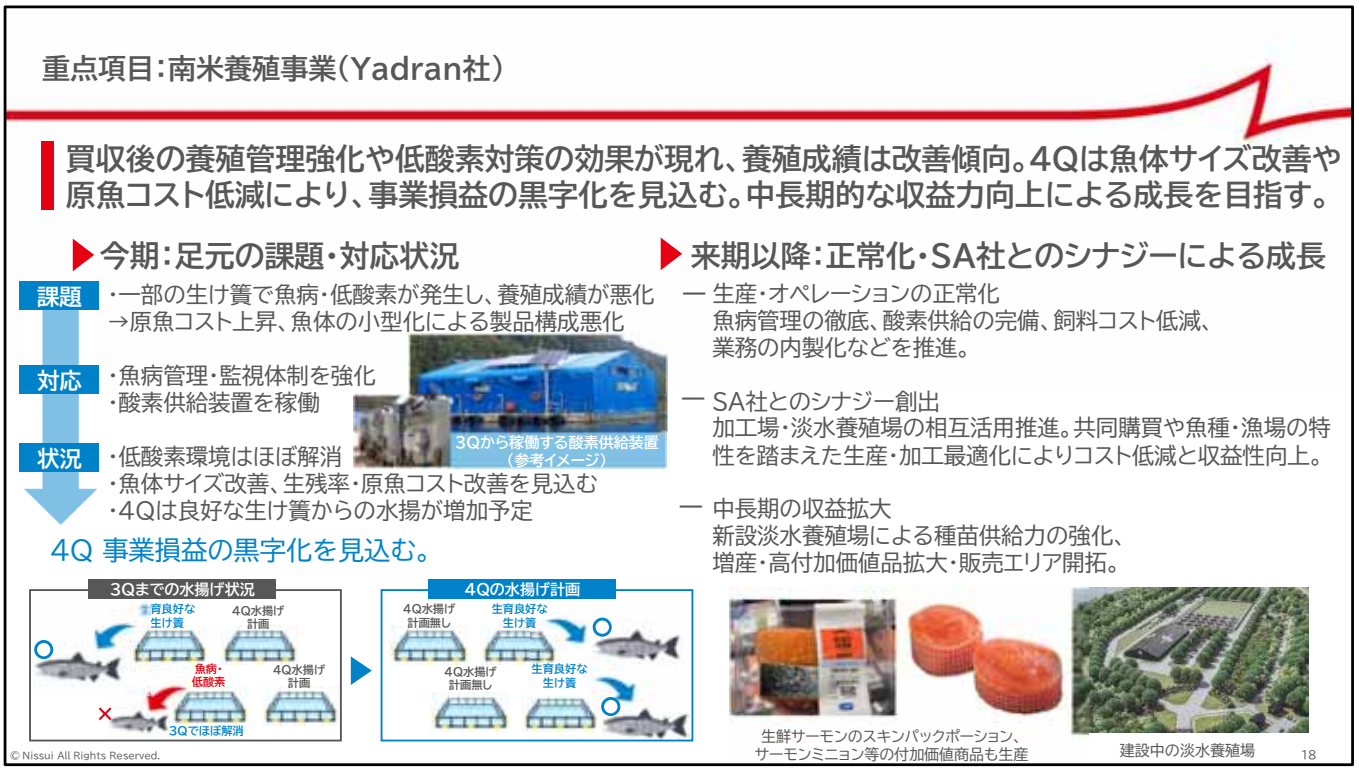
物流事業は、売上高が前年同期比5.1%増の87億円、営業利益は11億円となりました。

輸送・保管需要の取り込みや価格改定効果などにより増収となりましたが、人件費などのコスト上昇もあり、利益は前年並みとなっています。
今後も効率化と適切な価格対応を進め、収益性の維持・向上に取り組んでいきます。



ここからは、今後の見通しと重点的な取り組みについてご説明します。
通期業績予想は8月公表の計画を据え置いています。

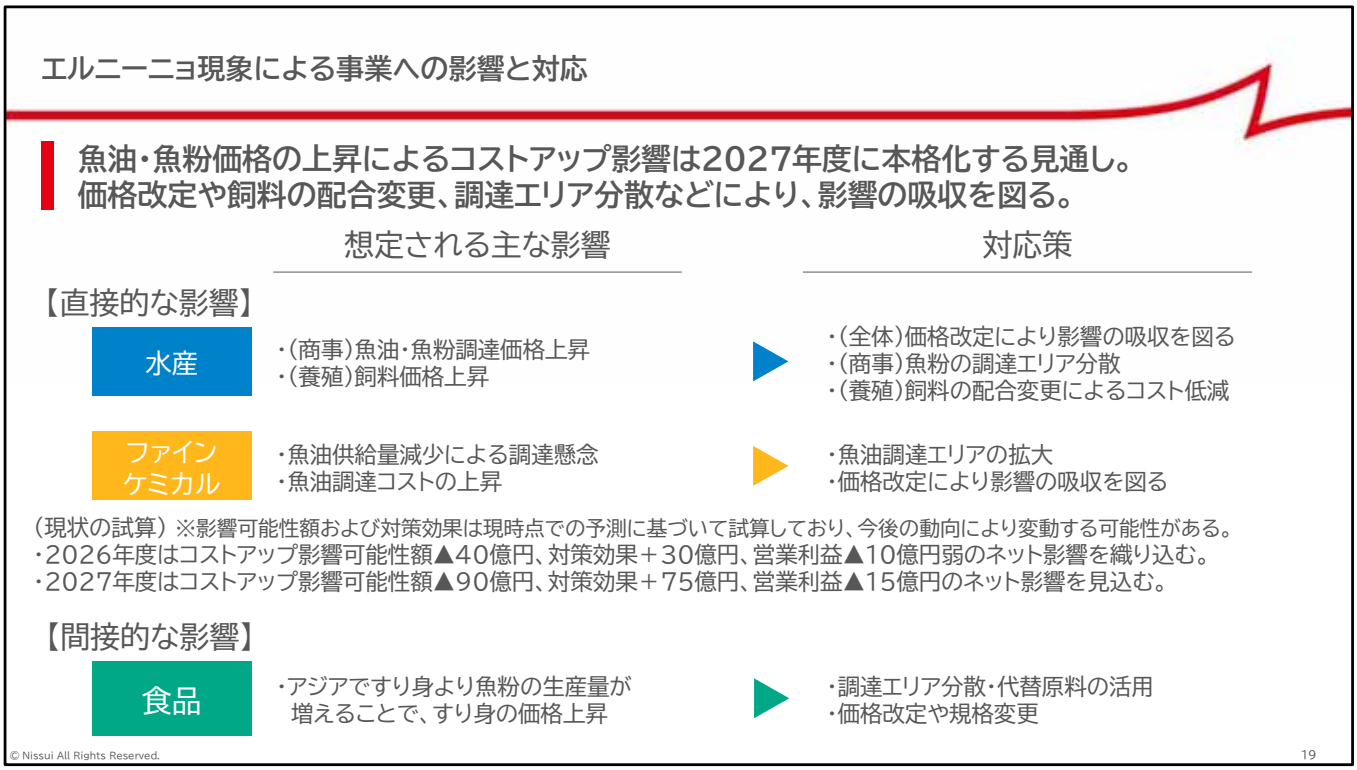
達成に向けて重要となる南米養殖の収益改善と、エルニーニョ現象による原料市況への影響・対応を中心にご説明します。



まず南米養殖事業のYadran社についてです。
Yadran社は買収後の収益改善を重要な経営課題と位置づけて取り組んできましたが、上期の業績は残念ながら当初の想定を下回りました。
主な要因は魚病や低酸素の影響です。これにより生残率が低下し、魚の成長も遅れたことで、原魚コストが上昇しました。また魚体が小型化したことにより、高付加価値商品の生産にも影響が生じました。
これらの問題に対して魚病管理や生育状況のモニタリングを強化するとともに、酸素供給装置の稼働などを進め、生産管理体制の改善を進めています。

その結果、足元では低酸素環境が概ね解消し、養殖成績にも改善が見られています。
第3四半期から第4四半期にかけて、生残率は87%から91%、平均魚体重は4.9キロから5.6キロへと改善する見込みです。それにより原魚コストも9%低下する見込みです。
こうした養殖成績の改善によって、第4四半期は事業損益ベースの黒字化を見込んでいます。
本日、10月の速報値も出ていますが、10月単月では黒字となりました。こうした足元の実績からも、第4四半期の黒字化には一定の手応えを感じています。

また、Yadran社のM&Aで最も重要なのは、グループ内のシナジーを十分に創出することです。それによって、安定的な利益創出と成長を両立することが、私たちの目的です。SA社の飼料工場の共同運営や、SA社とYadran社の加工設備や海面・淡水養殖場の相互活用に加え、オペレーションの内製化、漁場・生産・販売面でのシナジーを生かし、中長期的な収益力向上につなげていきます。



エルニーニョ現象による事業への影響についてです。エルニーニョ現象に伴うペルーなどでの漁獲環境の変化によって魚粉・魚油の供給や価格へ大きな影響が懸念されています。

当社グループでは、水産事業、食品事業、ファインケミカル事業と幅広い事業で魚粉・魚油の影響を受ける可能性があるため、重要な経営リスクとしてとらえています。
2026年度については、在庫の確保や調達の分散、価格改定などにより一定程度抑制されるものの、養殖事業や国内飼料販売などに影響が生じる見込みです。
現状の試算では約40億円のコスト増加に対して約30億円の対策効果が見込まれており、営業利益への影響として10億円弱のマイナスを今回の予測にも織り込んでいます。
2027年度については、養殖事業を中心にコスト上昇の影響が拡大し、約90億円のコスト増加を見込んでいます。
価格改定や飼料の配合変更、調達先の分散などにより約75億円を吸収し、営業利益への影響は約15億円のマイナスと現時点では試算しています。
また、ファインケミカル事業では原料魚油の安定確保と価格対応を進め、食品事業ではアジアでのすり身原料の調達分散や代替原料の活用などに取り組み、影響を最小限に抑えていきます。

今後も原料市況を注視しながら、調達、商品開発、価格政策、生産体制を一体的に見直し、影響を最小限に抑えていきます。
ただし、これらの試算は現時点の前提に基づくものであり、今後の市況等によって変動する可能性があります。

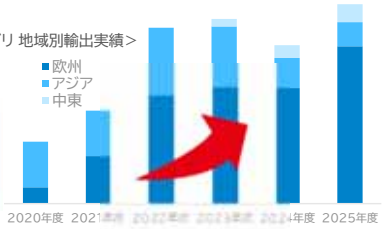
今後の取り組み： 水産事業

国内養殖の販売拡大・生産性向上に加え、加工・商事における高付加価値商品の生産・販売拡大を進め、持続的な成長を実現する。

（国内養殖）生産基盤強化・グローバル販売

－（ブリ）供給体制の強化を通じて、欧州に加え、アジア市場への販売拡大を推進。





－（ギンザケ）フィードバージ船の導入による給餌作業の自動化・効率化を通じて、生産基盤の強化を図る。

導入した
フィードバージ船



（国内商事）高付加価値化

－国内商事は、グループ養殖会社の生鮮品など高付加価値商品の拡充により、収益性の向上を図る。





（北米加工・南米漁業）収支改善・体質強化

－（北米加工）スケソウダラのフィレ比率向上など高付加価値化施策を推進し、収益性向上を図る。

－（南米漁業）船舶売却による引渡しは完了。

© Nissui All Rights Reserved.

水産事業の今後の取り組みでは、国内養殖の生産基盤強化や加工・商事における高付加価値化を進めていきます。

国内養殖では、ブリの海外販売の拡大に取り組んでいきます。
これまでのヨーロッパ市場に加え、アジア市場への販売も強化し、販路拡大を図っていきます。

ギンザケでは、種苗場の整備に加え、フィードバージ船の導入により、給餌作業の自動化・効率化を進め、生産性の向上を図っていきます。

北米商事では南米養殖会社の鮭鱒や北米加工会社のマダラ、国内商事ではグループ養殖会社の生鮮品などの販売を通じて高付加価値商品の拡充を進めていきます。

また北米加工商事においては引き続きスケソウダラのフィレ比率を高めるなど原魚の価値を最大限に引き出す取り組みを進めていきます。
南米漁業についても、船舶売却に伴う引き渡しが完了しており事業の収益構造改善を進めているところです。

水産事業はこれらの取り組みを通じて、資源へのアクセス力を生かすとともに、より多くの付加価値を生み出し、事業全体の持続的な収益性向上を図っていきます。

今後の取り組み： 食品事業

北米新工場と欧州の増設工場の稼働、国内新工場の建設、価格改定などを着実に推進し、中長期的な収益力を強化。

▶（欧米）生産増強による効果

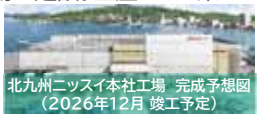
― 工場の生産増強による販売拡大により、来期から利益への貢献を見込む。2030年度には、欧米2社の2025年度営業利益（合計約115億円）の約25%に相当する増益効果を計画。
― 欧州では配送効率化や包装工程の自動化、北米では生産拠点の最適化による配送コスト削減などにより、収益性を向上。


北米：新設した工場の本格稼働開始（26年8月から）


欧州：増設した工場の生産開始（26年4月から）

▶（国内）生産増強・スマートファクトリー化

― 生産拡大と工場の再編を目的に新工場を建設。生産ライン集約・自動化による省人化・生産性向上。
― 生産性向上や省エネ化によるコスト削減、供給能力拡大により収益基盤の強化を図る。


北九州ニッスイ本社工場 完成予想図（2026年12月 竣工予定）

▶ コストアップに対する打ち手

― 原料価格上昇などに伴い、価格改定を進める。
― 個食・簡便などの消費者ニーズに対応する商品や高付加価値商品の提案を強化。





― 特定保健用食品や減塩など健康領域商品の拡大による収益性向上を図る。


特定保健用食品



減塩商品

© Nissui All Rights Reserved.

食品事業の今後の取り組みでは、国内外で進めてきた生産能力増強の効果を、今後の収益拡大につなげていきます。

北米ではGorton’sの新工場が本格稼働を開始し、欧州でもCité Marineの増設工場が生産を開始しています。
今後、販売数量の拡大に加え、生産拠点の最適化、包装工程の自動化、配送効率の改善などを進め、収益性の向上を図っていきます。
これらの設備投資については、欧米ともに来期から利益への貢献を見込んでいます。また、2030年度には欧米2社の2025年度の営業利益合計約115億円の約25%に相当する増益効果を見込んでいるところです。

国内においては、北九州工場が12月に竣工し、27年の3月から稼動を予定しています。
新工場では生産ラインの集約や自動化、省人化を進め、生産性の向上と供給能力の強化を図っていきます。
また原材料価格の上昇に対しては、価格改定を進めるとともに、個食・簡便ニーズに対応した商品や健康志向にこたえる高付加価値商品の展開を強化していきます。

今後の取り組み： ファインケミカル事業

来期以降エルニーニョ現象の影響を見込むも、原料調達の多様化による影響軽減に加えて、医薬品原料の販売拡大による収益性向上を図る。

▶原料調達リスクへの対応

－2026年度は必要な在庫を確保しており、業績影響は無し。

－魚油の供給減少や調達価格の上昇に対して、調達先・調達地域の多様化を推進。
価格改定などによりコスト増を吸収し、安定調達と収益性の確保を図る。

▶（医薬品原料）製薬会社の事業展開に伴う医薬品原料の販売拡大

日本

AG（※）のさらなるシェア拡大に期待。

※AG：オーソライズドジェネリック。
先発医薬品メーカーから許諾を得て、製造・販売されるジェネリック医薬品

欧州

計11ヶ国（※）にて販売されており、更なる拡大に期待。

※2026年10月28日時点

北米

在庫量水準の正常化に伴い、原料購買の安定化に期待。

アジア他

タイ・ベトナムでの販売拡大、中国での販売実現に加えて、
その他の国々への申請承認の拡大を期待。

© Nissui All Rights Reserved.

ファインケミカル事業の今後の取り組みです。
先ほどお伝えしたエルニーニョ現象の影響によって来期以降は原料魚油の供給減少や価格上昇が懸念されています。
2026年度については、必要な原料在庫を確保していますので業績への影響はない見込みです。

今後は調達先や調達地域の多様化を進めるとともに、価格改定などによってコスト上昇に対応し、安定調達と収益性の確保を図っていきます。
また成長面では、製薬会社の事業展開に対応して、オーソライズドジェネリックのさらなるシェア拡大、欧州での販売エリアの拡大、北米での販売安定化などに伴う医薬品原料の販売拡大を図っていきます。

ファインケミカル事業は、原料リスクに対応するとともに、当社独自の技術力を生かして高い付加価値を生み出し、収益基盤の強化を進めていきます。

今後の取り組み： サステナビリティ

持続可能な水産資源の利用に向け、認証商品の展開や漁業改善プロジェクトへの参画など、事業活動と連動した取り組みを推進

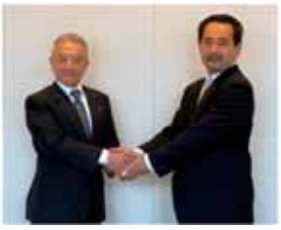
▶ 「MSCジャパン・アワード 2026」メーカー部門を受賞
アワード創設以来、3年連続で選出



一般社団法人MSCジャパン プログラム・ディレクター 石井 氏(左)と当社サステナビリティ推進部長 西 (右)

- MSCは、持続可能な漁業を推進する国際的な非営利団体。
- ニッスイは、ちくわやフィッシュソーセージなどのMSC認証商品を展開。認証商品の販売実績など、持続可能な水産資源の利用に向けた取り組みが評価された。

▶ インドにおけるすり身原料魚FIP(漁業改善プロジェクト)への参画



公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン) 事務局長 東梅氏(右)と当社COO 浅井(左)



インドの漁港で水揚げされたイトヨリダイ
© WWF-India

- インド産すり身原料魚は、資源状態を適切に評価するための情報が十分ではなく、持続可能な利用に向けた課題がある。
- WWFジャパン、WWFインド、現地のすり身加工メーカーなどと連携し、資源状態の把握や漁業管理体制の整備を進め、漁業の持続可能性向上と原料調達の安定化を目指す。

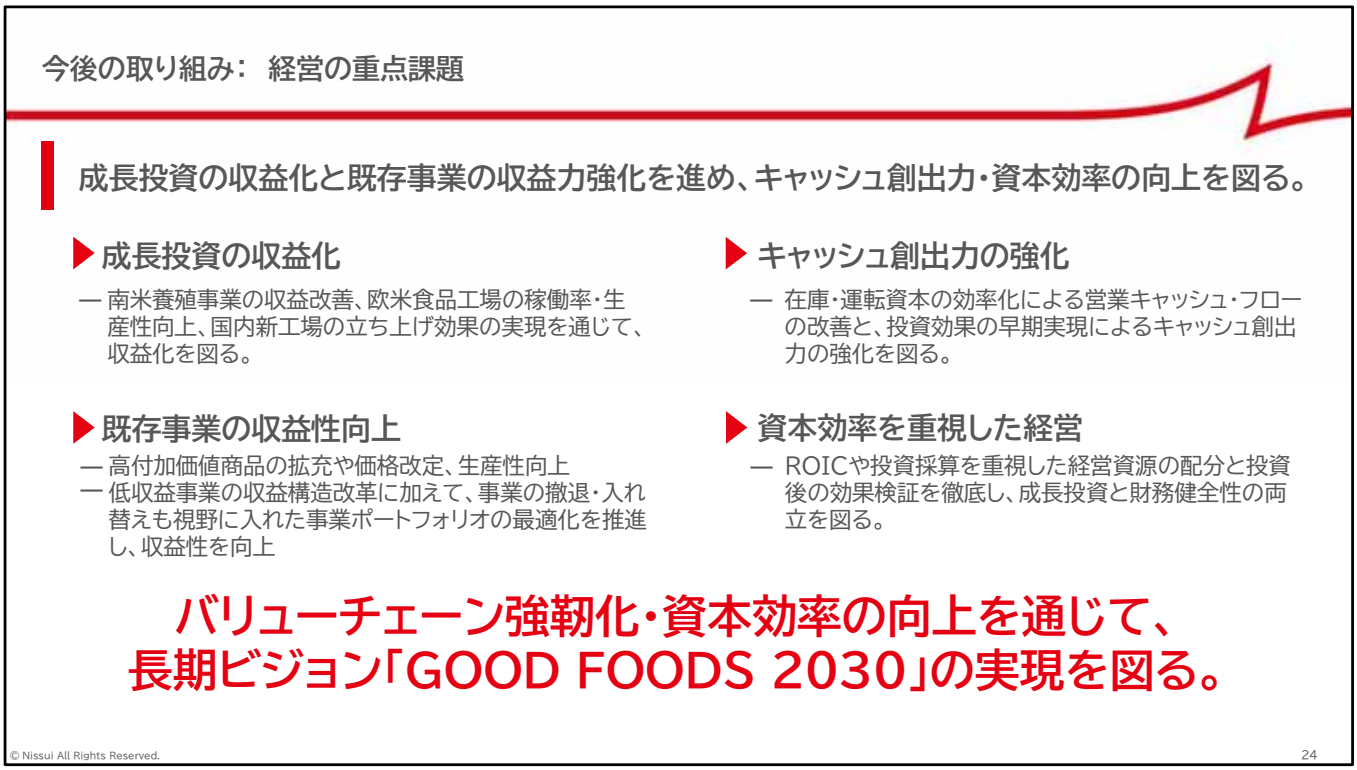
© Nissui All Rights Reserved.

続いて、サステナビリティに関する取り組みを2つ説明します。

まず、MSCジャパンが主催する「MSCジャパン・アワード2026」において、メーカー部門を受賞しました。2024年度以来3年連続の受賞となっています。
当社では、ちくわやフィッシュソーセージなどのMSC認証商品を展開しており、こうした持続可能な水産物の普及に向けた継続的な取り組みが評価されたものと認識しています。

続いて、インドにおけるすり身原料魚の漁業改善プロジェクトへの参画についてご報告します。
当社はWWFジャパン、WWFインド、現地のすり身加工メーカーなどと連携して、インド西海岸において資源状態の把握や漁業管理体制の改善などに取り組むこととしています。すり身は当社の食品事業を支える重要な原料の一つでもあり、水産資源の持続可能な利用は当社の事業継続と中長期的な価値向上に直結するものと考えています。

今後も事業活動と一体となったサステナビリティの取り組みを進めていきます。



最後に今後の経営の重点課題について説明します。
当社は中期経営計画「GOOD FOODS Recipe2」において、養殖事業や海外食品事業を中心に積極的な成長投資を進めてきました。これらの投資によって今後の成長に向けた事業基盤は着実に強化されてきたと考えています。一方、今回の決算発表からもわかる通り、投資に伴う減価償却や金融費用の増加、運転資本の拡大など、収益面、財務面で負担が生じているのも事実です。

したがって、今後の経営では次の4点を重視して取り組みます。
第1に、成長投資の収益化です。南米養殖事業や国内外の食品工場への成長投資を、着実に利益につなげていきます。
第2に既存事業の収益力強化です。高付加価値化、生産性向上、価格改定に加え、厳格な判断でのポートフォリオの最適化をはかり収益構造改革を実践していきます。
第3にキャッシュ創出力の強化です。今回の中間期では、営業キャッシュフローがマイナスになりました。一時的な要因もありますが、在庫や運転資本の効率化を徹底し、利益を確実にキャッシュにつなげていきます。
第4に、資本効率を重視した経営です。ROICや投資採算を重視し、成長投資と財務健全性の両立を図ります。

私自身、今後のニッスイにとって重要なのは、事業規模を拡大することだけではなく、事業の収益性を高め、資本を効率的に活用して持続的な企業価値の向上を実現することだと考えています。そのためには、これまでの成長投資の成果を確実に、かつ早期に実現するとともに、必要な事業構造改革を先送りせずに進めることが重要です。
引き続きバリューチェーンの強靭化と資本効率の向上を通じて、長期ビジョン「GOOD FOODS 2030」の実現を目指していきます。今後ともご支援のほどよろしくお願いします。



GLOBAL LINKS

© Nissui All Rights Reserved.

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況及び製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

nissui

まだ見ぬ、食の力を。

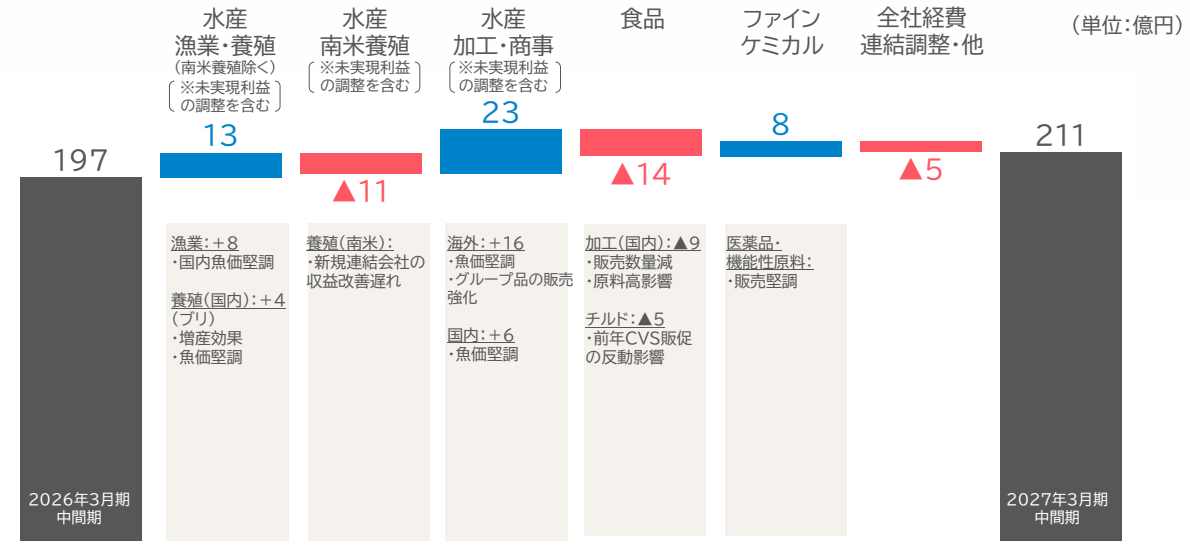
株式会社ニッスイ
証券コード：1332
お問合せ先：経営企画IR部IR課
03-6206-7037
https://www.nissui.co.jp/ir/index.html

© Nissui All Rights Reserved.

参考資料



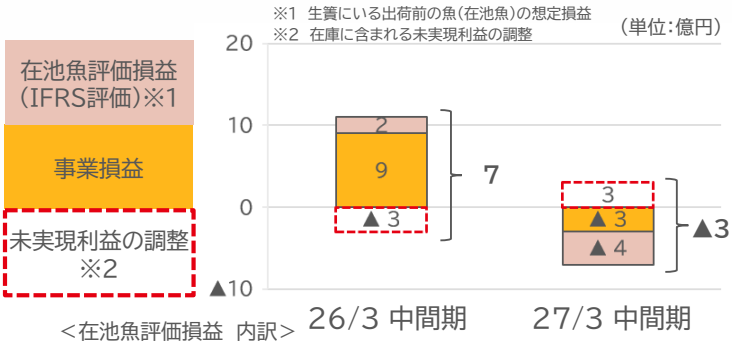
2027年3月期 中間期　主な営業利益増減要因(前年同期比)　※未実現利益の調整を含む



© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　南米鮭鱒養殖について

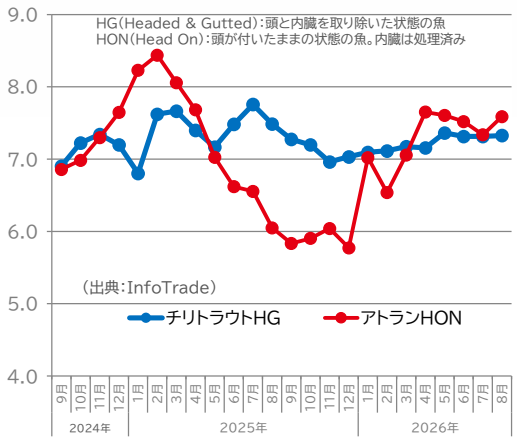
※1　生簀にいる出荷前の魚(在池魚)の想定損益
※2　在庫に含まれる未実現利益の調整



＜在池魚評価損益　内訳＞

(単位:億円)	26/3 中間期 SA社	27/3 中間期 SA社・Yadran社計
期首戻入額	▲3	4
期末評価損益	6	▲8
在池魚評価損益	2	▲4

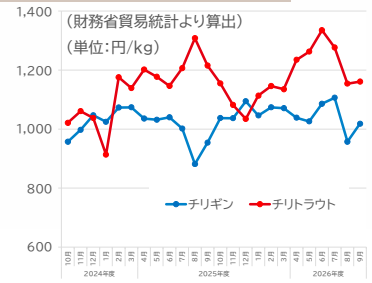
チリ産トラウトHG・アトランHON相場推移
(単位:USD/kg)



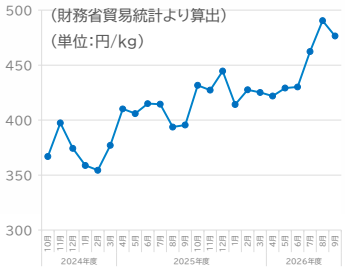
© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　参考資料

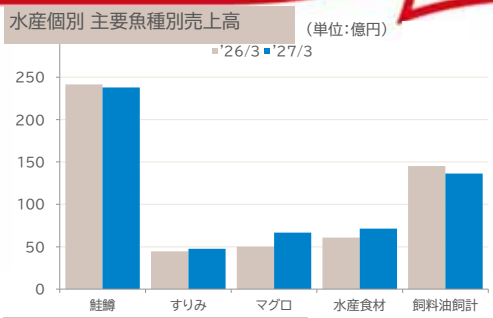
輸入価格推移　鮭鱒



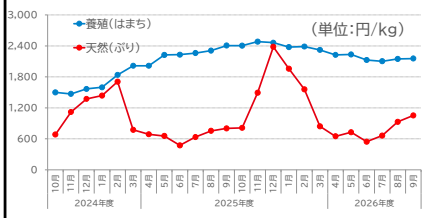
輸入価格推移　冷凍すり身



水産個別 主要魚種別売上高

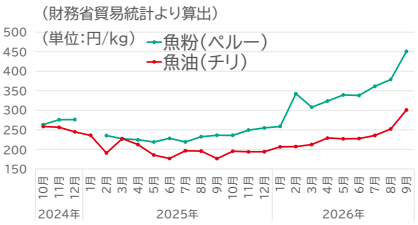


国内水産物市況　ブリ

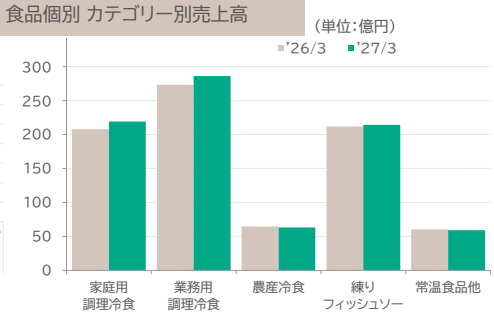


出典:東京都中央卸売市場のデータを加工して作成(鮮魚)
天然:「ぶり」の平均価格、養殖:「はまち(養殖)」の平均価格

輸入価格推移　魚油・魚粉



食品個別 カテゴリー別売上高



© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	増減	主な増減要因
売上高	**4,529**	**5,067**	**537**	
売上総利益	**744**	**812**	**68**	
販売費・一般管理費	546	600	54	
営業利益	**197**	**211**	**13**	
営業外収益	29	31	1	
営業外費用	15	38	23	支払利息+20
経常利益	**212**	**204**	**▲7**	
特別利益	4	25	21	投資有価証券売却益+25
特別損失	5	18	12	
税金等調整前中間純利益	**210**	**212**	**1**	
法人税等	60	73	12	
法人税等調整額	▲4	▲8	▲4	
中間純利益	**154**	**147**	**▲7**	
非支配株主に帰属する中間純利益	11	11	0	
親会社株主に帰属する中間純利益	**142**	**135**	**▲7**	

© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 為替換算による影響額(売上高:連結調整前)

	2026年3月期 中間期		2027年3月期 中間期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	売上高増減影響	為替影響
USD(百万ドル)	813	1,202	1,003	1,588	189	386	281	104
EUR(百万ユーロ)	234	379	239	441	5	62	8	54
DKK(百万クローネ)	1,780	387	1,806	447	26	59	5	53
その他通貨	―	215	―	255	―	40	17	22
計		2,185		2,733		548	313	234

【参考:為替レート】
※右表の為替レートは
各四半期の平均

	2027年3月期 Q1	2027年3月期 Q2
USD	156.45 円	160.72 円
EUR	183.53 円	186.13 円
DKK	24.56 円	24.90 円

© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　セグメントマトリックス　売上高(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	1,312 *(89)*	540 *(112)*	380 *(194)*	518 *(68)*	38 *(2)*	2,791 *(466)*	▲650 *(▲114)*	2,140 *(352)*
	1,223	428	186	450	36	2,325	▲536	1,788
食品事業	1,626 *(12)*	666 *(79)*		514 *(78)*	72 *(13)*	2,879 *(182)*	▲188 *(▲9)*	2,691 *(173)*
	1,614	587		436	59	2,697	▲179	2,517
ファイン 事業	95 *(11)*					95 *(11)*	▲13 *(0)*	81 *(10)*
	84					84	▲13	71
物流事業	175 *(9)*					175 *(9)*	▲88 *(▲6)*	87 *(4)*
	166					166	▲82	83
その他 事業	82 *(▲13)*				1 *(0)*	84 *(▲12)*	▲17 *(11)*	66 *(▲2)*
	95				1	96	▲28	68
仮計	3,293 *(109)*	1,206 *(191)*	380 *(194)*	1,033 *(147)*	112 *(15)*	6,026 *(657)*		
	3,184	1,015	186	886	97	5,369		
連結調整	▲528 *(▲19)*	▲135 *(▲3)*	▲210 *(▲83)*	▲9 *(▲2)*	▲75 *(▲12)*		▲959 *(▲119)*	
	▲509	▲132	▲127	▲7	▲63		▲840	
連結 計	2,764 *(90)*	1,071 *(189)*	170 *(112)*	1,023 *(145)*	37 *(3)*			5,067 *(537)*
	2,674	882	58	878	34			4,529

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。
※連結調整にはグループ間取引による売上高消去を含む。

© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　セグメントマトリックス　営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	全社経費	仮計	連結調整	連結 計	営業利益率(%)
水産事業	58 *(14)*	24 *(10)*	▲10 *(▲18)*	14 *(1)*	2 *(0)*		88 *(9)*	▲3 *(15)*	85 *(24)*	*4.0 (0.6)*
	43	13	7	12	2		79	▲18	60	*3.4*
食品事業	69 *(▲15)*	34 *(▲4)*		46 *(5)*	4 *(0)*		154 *(▲14)*	▲1 *(▲0)*	153 *(▲15)*	*5.7 (▲1.0)*
	85	38		41	4		169	▲0	168	*6.7*
ファイン 事業	10 *(8)*						10 *(8)*	▲0 *(0)*	10 *(8)*	*12.5 (10.1)*
	2						2	▲0	1	*2.4*
物流事業	11 *(▲0)*						11 *(▲0)*	0 *(0)*	11 *(▲0)*	*13.7 (▲1.1)*
	12						12	0	12	*14.8*
その他 事業	2 *(▲0)*				0 *(0)*		3 *(▲0)*	1 *(1)*	4 *(0)*	*6.4 (1.4)*
	3				0		3	▲0	3	*5.0*
全社経費						▲53 *(▲4)*	▲54 *(▲4)*	0 *(0)*	▲53 *(▲4)*	
						▲48	▲49	0	▲48	
仮計	153 *(6)*	58 *(6)*	▲10 *(▲18)*	61 *(7)*	6 *(0)*	▲54 *(▲4)*	214 *(▲2)*			
	146	52	7	54	6	▲49	217			
連結調整	▲2 *(5)*	▲0 *(4)*	3 *(6)*	▲3 *(▲0)*	▲0 *(▲0)*	0 *(0)*		▲3 *(16)*		
	▲8	▲4	▲3	▲2	▲0	0		▲19		
連結 計	150 *(12)*	58 *(10)*	▲7 *(▲11)*	58 *(6)*	6 *(0)*	▲53 *(▲4)*			211 *(13)*	*4.2 (▲0.2)*
	138	47	3	51	6	▲49			197	*4.4*

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。
※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等を含む。

© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　セグメントマトリックス　営業利益率（前年同期比）

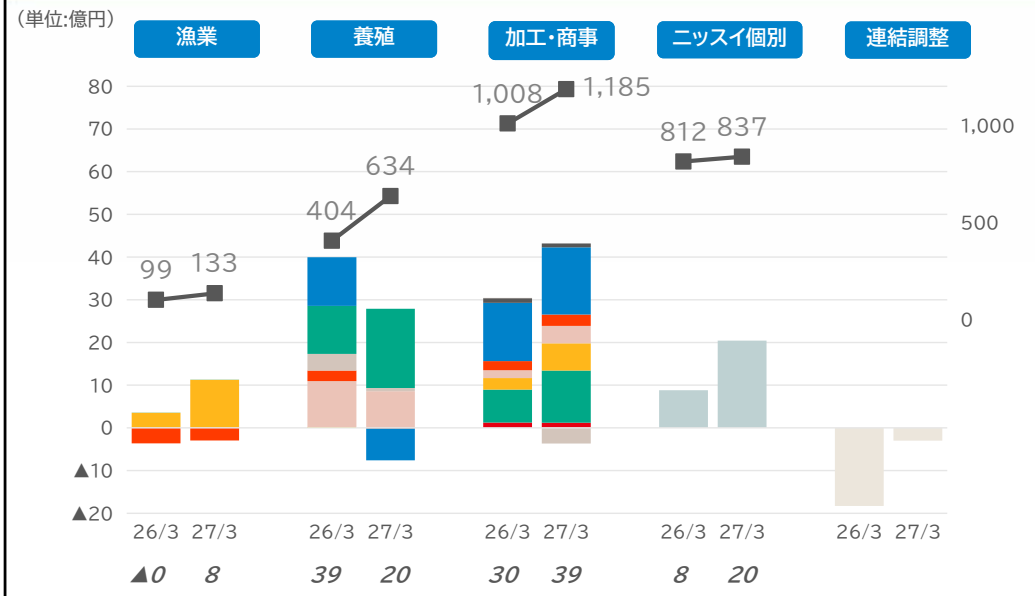
	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	仮計	連結 計
水産事業	4.5% *(0.9pt)*	4.5% *(1.3pt)*	▲2.9% *(▲6.7pt)*	2.8% *(0.0pt)*	5.5% *(▲0.0pt)*	3.2% *(▲0.2pt)*	4.0% *(0.6pt)*
	3.6%	3.2%	3.9%	2.8%	5.6%	3.4%	3.4%
食品事業	4.3% *(▲1.0pt)*	5.1% *(▲1.4pt)*		9.1% *(▲0.4pt)*	5.8% *(▲0.9pt)*	5.4% *(▲0.9pt)*	5.7% *(▲1.0pt)*
	5.3%	6.5%		9.5%	6.8%	6.3%	6.7%
ファイン 事業	11.1% *(8.2pt)*					11.1% *(8.2pt)*	12.5% *(10.1pt)*
	2.9%					2.9%	2.4%
物流事業	6.8% *(▲0.6pt)*					6.8% *(▲0.6pt)*	13.7% *(▲1.1pt)*
	7.4%					7.4%	14.8%
その他 事業	3.3% *(▲0.2pt)*				30.0% *(10.0pt)*	3.6% *(▲0.1pt)*	6.4% *(1.4pt)*
	3.5%				20.0%	3.6%	5.0%
仮計	4.6% *(0.0pt)*	4.9% *(▲0.3pt)*	▲2.9% *(▲6.7pt)*	5.9% *(▲0.2pt)*	6.0% *(▲0.4pt)*	3.6% *(▲0.5pt)*	
	4.6%	5.1%	3.9%	6.1%	6.4%	4.0%	
連結 計	5.4% *(0.3pt)*	5.4% *(0.0pt)*	▲4.5% *(▲10.6pt)*	5.7% *(▲0.2pt)*	17.0% *(▲0.6pt)*		4.2% *(▲0.2pt)*
	5.2%	5.4%	6.0%	5.8%	17.6%		4.4%

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　水産事業　売上高・営業利益(前年同期比)

(単位:億円)



営業利益(棒グラフ)

売上高(折れ線グラフ)

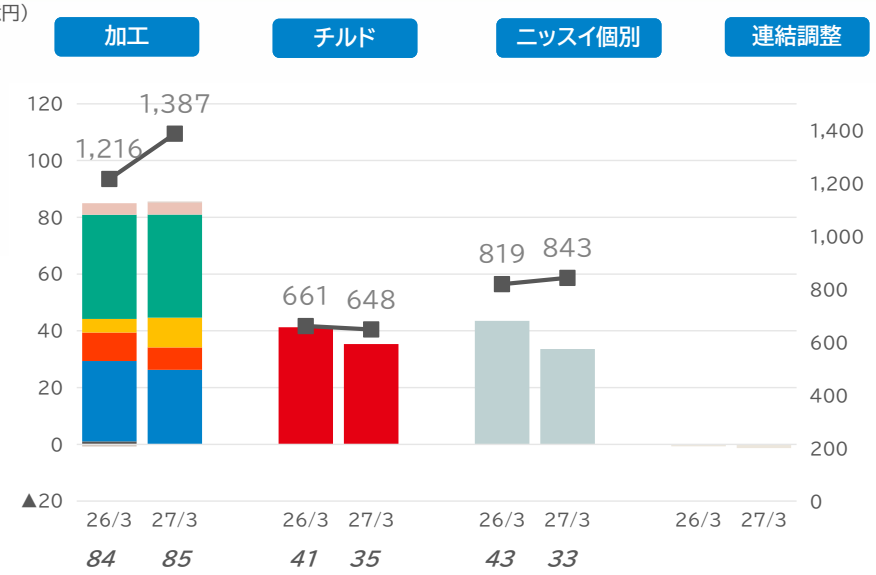
※棚卸資産の未実現利益、のれん償却等含む

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　食品事業　売上高・営業利益(前年同期比)

(単位:億円)



営業利益(棒グラフ)

売上高(折れ線グラフ)

※棚卸資産の未実現利益、のれん償却等含む

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

© Nissui All Rights Reserved.



© Nissui All Rights Reserved.